THE GLOBE PROGRAM FOR SDGs

SDGsのための GLOBEプログラム

理論編

T04

私はどこから来たのか？ 私は何者か？ 私はどこへ行くのか？（拡張版）

「この私」を問い直す「鏡としての水俣病」

「この私」を振り返り問い直す「鏡」として、水俣病を取り上げます。

「水俣病とは、化学工場から海や河川に排出されたメチル水銀化合物を、魚、エビ、カニ、貝などの魚介類が直接エラや消化管から吸収して、あるいは食物連鎖を通じて体内に高濃度に蓄積し、これを日常的にたくさん食べた住民の間に発生した中毒性の神経疾患です」（環境省水俣病情報センター、〈http://nimd.env.go.jp/archives/minamata_disease_in_depth/〉、2022年9月15日アクセス）。水俣病は、人類が初めて経験した大規模な環境汚染による人体被害であるゆえに、「公害の原点」と言われ、持続不可能な社会を象徴する出来事と言えます。

その研究の第一人者で、患者の救済に半世紀にわたって取り組み、1990年代末に水俣学を提唱した医師の原田正純さんは、このように書き記しています。

水俣病は鏡である。この鏡は、みる人によって深くも、浅くも、平板にも立体的にもみえる。そこに、社会のしくみや政治のありよう、そして、みずからの生きざままで、あらゆるものが残酷なまでに映しだされてしまう。そのことは、はじめての人たちにとっては強烈な衝撃となり、忘れ得ないものとなる。（『水俣が映す世界』1989、3頁）

この「鏡としての水俣病」を用いて、「この私」を振り返り問い直すワークに取り組んでみましょう。

進め方

【個人ワーク】

(1)「この私」のライフヒストリーを書（描）く。

「越境する教育学」の提唱者で教師教育が専門の成田喜一郎さんが開発された「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」を使って、「この私」のライフヒストリー（自分史）を書（描）いてみましょう。

「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」については、「ライフヒストリーデザイン曼荼羅を描いてみませんか？」（成田喜一郎、〈https://holisticeducation2011.blogspot.com/2020/11/mandalaegpm.html〉、2022年12月9日アクセス）を参照ください。サイトの後半に「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」の様式集（手書き用pdfとWord版）が掲載されています。この様式にライフヒストリー（自分史）を書（描）いてみましょう。

同時代の環境教育／ESDの歴史や社会の動向を知るためには、たとえば下記の資料を参照ください。

- 【巻末資料】①の「日本の環境教育のダイナミズム」
- 【巻末資料】②の『ユネスコスクールで目指す SDGs 持続可能な開発のための教育』パンフレット 9ページ「ESDと世界的な動き」
- 中村政則、森武麿編（2019）『年表　昭和・平成史 新版：1926–2019』岩波書店。

(2)水俣病に深く関わった人（たち）の資料を読み、また映像を視聴して、「この私」の心の消息を書く。

さまざまな立場から、「一人の人間」として水俣病に深く関わった人（たち）を取り上げます。その人（たち）に関する文字資料を読み、また映像資料がある場合には視聴して、感じ、

思い、考えたことなど、「一人の人間」である「この私」の心がどのように動き、今、どのような様子であるか、その消息を、それぞれの人(たち)についてA4の用紙1〜2枚に書いてみましょう。

取り上げる人(たち)と資料は、下記の通りです。

① 杉本栄子さん(水俣病患者)

【文書資料】

- 杉本栄子(2000)「水俣の海に生きる」栗原彬編『証言　水俣病』岩波書店。
- 「杉本家の水俣病50年」、水俣市立水俣病資料館企画展資料

【映像資料】(各15分程度)

- もやいの家:水俣・杉本家の40年(1)〈https://www.youtube.com/watch?v=1THfPeHGX5c〉、2022年12月9日アクセス
- もやいの家:水俣・杉本家の40年(2)〈https://www.youtube.com/watch?v=EddC7j1LcO4〉、2022年12月9日アクセス
- もやいの家:水俣・杉本家の40年(3)〈https://www.youtube.com/watch?v=vOc4xawbclY〉、2022年12月9日アクセス
- もやいの家:水俣・杉本家の40年(4)〈https://www.youtube.com/watch?v=ilGj6OLUSnw〉、2022年12月9日アクセス

② 川本輝夫さん(水俣病患者)

【文書資料】

- 川本輝夫(2000)「一人からの闘い」栗原彬編『証言　水俣病』岩波書店。
- 「水俣病の不条理に挑んだ男　川本輝夫」、水俣市立水俣病資料館企画展資料

【映像資料】

- 土本典昭監督『回想・川本輝夫　ミナマタ:井戸を掘ったひと』DVD(42分)

③ チッソ・水俣工場技術者たち

【文書資料】

- NHK取材班(1995)「チッソ・水俣 工場技術者たちの告白」『NHKスペシャル　戦後50年その時日本は』(第3巻)

【映像資料】

- NHKスペシャル『戦後50年その時日本は　第4回　チッソ・水俣　工場技術者たちの告白』(1995年7月1日放送)(59分)〈https://www.dailymotion.com/video/x2fjt6j〉、2022年12月9日アクセス

④ 細川一さん(チッソ水俣工場附属病院長)

【文書資料】

- 細川一(1968)「今だからいう水俣病の真実」『文藝春秋』12月1日号、46(3)、140-148〈https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/PDF/hosokawa_minamata.pdf〉
- 「そのとき細川一はどう動いたのか:新日窒(現チッソ(株))水俣工場附属病院長細川一」、水俣市立水俣病資料館企画展資料

【映像資料】

- NHK(2009)『その時　歴史が動いた　我が会社に非あり:水俣病と向き合った医師の葛藤』(2009年1月28日放送)DVD(43分)　YouTubeで視聴可(各11分程度)
- わが会社に非あり:水俣病と向き合った医師の葛藤(1)〈https://www.youtube.com/watch?v=R2fu9xNWJ3g〉、2022年12月9日アクセス
- わが会社に非あり:水俣病と向き合った医師の葛藤(2)〈https://www.youtube.com/watch?v=0hngV0TOXPw〉、2022年12月9日アクセス
- わが会社に非あり:水俣病と向き合った医師の葛藤(3)〈https://www.youtube.com/watch?v=2ric0GuDzgg〉、2022年12月9日アクセス
- わが会社に非あり:水俣病と向き合った医師の葛藤(4)〈https://www.youtube.com/watch?v=ipyLdtqhkzc〉、2022年12月9日アクセス

⑤ 山内豊徳さん（環境庁官僚）

【文書資料】

- 是枝裕和（2014）『雲は答えなかった：高級官僚　その生と死』PHP研究所
  本書は、同著者の下記2冊をもとに加筆・修正したものです。
- （1992）『しかし・・・：ある福祉高級官僚　死への軌跡』あけび書房
- （2001）『官僚はなぜ死を選んだのか：現実と理想の間で』日経BPマーケッティング

⑥ 緒方正人さん（水俣病患者）

【文書資料】

- 緒方正人（2000）「魂のゆくえ」栗原彬編『証言　水俣病』岩波書店。
- 緒方正人（2020）『チッソは私であった：水俣病の思想』河出書房新社。

⑦ 田中裕一さん（中学校社会科教諭）

【文書資料】

- 田中裕一著、原田正純監修、未来を創る会編（1990）『石の叫ぶとき：環境・教育・人間　その原点からの問い』未来を創る会。
- 和井田清司編著（2010）『戦後日本の教育実践：リーディングス・田中裕一』学文社。

（3）私はどこから来たのか？私は何者か？私はどこへ行くのか？に対する「この私」の応答を書く。

（2）を書き終えたら、（1）、（2）で書いたものを改めて最初から順番に読んでみましょう。どのようなことが「この私」の心に去来するでしょうか。私はどこから来たのか？私は何者か？私はどこへ行くのか？「この私」の応答をA4の用紙1枚に書いてみましょう。

（4）「この私」のこれからの教育についての思いを書く。

最後に、「この私」のこれからの教育についての思いを、A4の用紙1枚に自由に書いてみましょう。

◆水俣病についてもう少し知りたい方は水俣病に関する資料はいろいろありますが、まずは下記書籍と映像をご覧ください。

【書籍】

- 高峰武（2016）『水俣病を知っていますか』岩波書店

【映像】

- NHK（1959）『日本の素顔（第99集）奇病のかげに』（27分）〈https://www.youtube.com/watch?v=AWqazOFzGdg〉、2022年12月9日アクセス
- 土本典昭監督（1971）『水俣：患者さんとその世界』DVD（107分）
- 土本典昭監督（1976／1987）『水俣病：その20年』DVD（43分）『水俣病：その30年』DVD（43分）2作品同時収録

【グループワーク】

ここまで、一人で「鏡としての水俣病」に映し出される「この私」の心を尋ね、心の消息を文章に書いてきました。

書いたものを同僚や仲間などと共有し、お互いに質問を出し、感想を伝え合い、それぞれの「この私」と「この私」の教育について話し合ってみましょう。

また、書いたものを原子まで送ってもらっても構いません。このワークをめぐって、対面あるいはオンラインでいろいろお話できれば幸いです。

＊連絡先
原子 栄一郎
東京学芸大学環境教育研究センター
電子メール：atom@u-gakugei.ac.jp

ESDの根本課題に取り組む
ワークの実例

ESDの根本課題に取り組むワークは、これまで、東京学芸大学初等教育教員養成課程環境教育選修の必修科目「環境教育概論」や、東京学芸大学教職大学院教育実践専門職高度化専攻教育プロジェクトプログラム環境教育サブプログラムの「環境教育実践原論」の授業で行ってきました。ここでは、2022年度春学期の「環境教育実践原論」でワークに取り組んだ2人の院生（修士1年生）が実際に書いたものを紹介します。1人は、9年間、私立小学校に勤めて大学院に入学した人（Aさん）、もう1人は、学部卒業後に大学院に進学した人（Bさん）です。

＊ワークに取り組んだAさんの声

本ワークを通して「私」を問い直す（言語化する）ことで、これまで見えなかった・気付かなかった「私」を呼び起こすこととなった。また、「環境教育」は、「立場・年代・性別等を超え、生涯にわたって学び続ける学問である」ということにも気付くことができた。「私」に気付くこともできた一方、途中で思考が停止してしまうこともあったが、その過程も含め本ワークの意味／意義なのだと感じている。皆さんも「私」を問い直し、立ち止まりながら、「生きるとは何か」を考えてみませんか。

Aさんの声
：https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/PDF/work.A.pdf

＊ワークに取り組んだBさんの声

学部からの授業を踏まえながら、自分事として捉えるように努めてきました。正直なところ、まだまだ他人事な部分はあります。しかし、今回の授業で自分事として捉えることの大切さを改めて実感できたと共に、「一人の人間として生きること」を根本的に見直すことができたように感じています。授業は終わってしまいましたが、今後も「一人の人間として生きること」について、問い続けていきたいと思います。

Bさんの声
：https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/PDF/work.B.pdf